ゆうあい報
おだぴたる

特定医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者　祐愛会織田病院企画室
責任者　織田　正道

＜院内報＞

カピオラニ・メディカルセンター・パリモミ（米国・ハワイ州）と国際姉妹病院に

理事長　織田正道

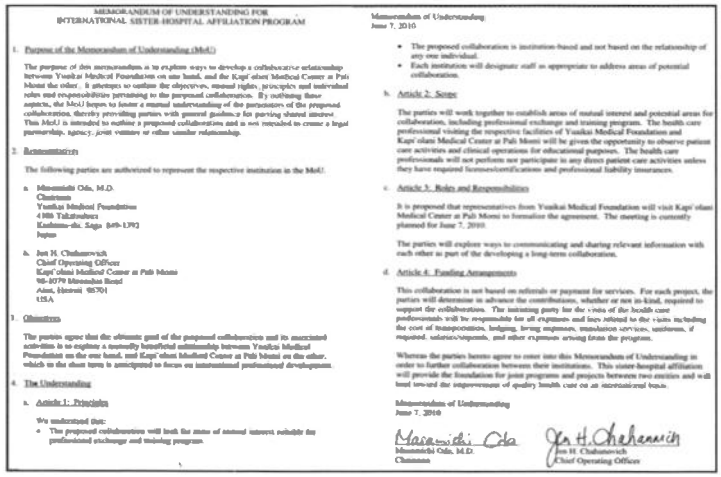
今年、神戸で開催される全日本病院学会のテーマは、『グローバル社会と医療』です。これからの日本は、あらゆる分野で国際化の流れが加速します。学会の趣旨にもありますように、医療や介護分野も例外ではなく、国を超えた技術交流、医療貢献、就労の確保が進むのは確実と思われます。そのような中、当院は六月七日に米国・ハワイ州のカピオラニ・メディカルセンター・パリモミと国際姉妹病院として提携を行い、連携プログラムに関する覚書を取り交わしました（写真1、2）。

↑写真1）覚書を取り交わす理事長と同センター　Ms.Jen Chahanovich (Chief Operating Officer: 最高執行責任者)

同センターは、一〇〇年の歴史があり、ウイメンズセンターで有名なカピオラニ・メディカルセンターの関連病院として一九八九年に開設された非営利病院です。急性期病床一一六床と小規模ながらも、ハワイ州の救急医療における基幹病院として、年間四万人もの救急患者を受け入れています。また、手術件数は二〇〇九年七二三五件を数えています。American Heart Association と American Stroke Association から冠動脈疾患の治療において高い評価を受け、三年連続ゴールド賞を受賞しています。同センターはワイキキの中心街から車で約二〇分の所にあり、周囲は閑静な住宅地に位置しています。その建物すべてが患者中心に設計され、中庭のリラックスした空間から、細かく配慮された区画の病室へとつながり、病院にいることを感じさせないユニークな建築デザインとなっています（写真3）。

同センターと国際姉妹病院として提携を進めたのは、1）各種制度の違いはあっても、ハワイ州におけるヘルスケアシステムは、諸島内にすべての機能が整い、まさに米国の縮図を見るような地域であること、2）前述の如く小規模ながらも急性期医療の実績があり地域の信用が高いこと、3）グローバル化する時代にあって、ブランドリーダーシップ、クオリティーリーダーシップについての理解を深める機会であることなど、姉妹病院となることで学ぶ点が多くあると考え、この提携を結ぶことにしました。また、日本以外の国にある病院と国際交流を持つことは実に有意義です。スタッフにとって実際に医療現場を体験できる貴重な機会であり、地域におけるヘルスケアシステム構築を進める上での参考になるものと思います。早速、双方の病院は協力して、専門家の交換、研修プログラムを含め提携のための相互の利益と可能性のある分野を設定し、早ければこの秋から、医師だけではなく、看護師、コメディカル、事務部門の派遣を開始します。

当法人は、これまでも医療分野においては、すでにインドネシアとのEPA（経済連携協定）に基づき四名の看護師候補生を受け入れていますし、来年度からは中国からの看護学生受け入れを検討しています。また、介護分野では、これまでの四年間、高齢化の進展に伴い増え続ける認知症高齢者に対応するため、認知症ケアで実績のある豪州のハモンドケアグループと提携し、職員教育や認知症アセスメントツールの共同開発など積極的に進め実績を上げてきました。このように将来を見据えた取り組みは、自ずと国の壁を超えると共に、当法人の基礎となる人材育成にも大いに役に立つものと考えます。



MEMORANDUM OF UNDERSTANDING FOR
INTERNATIONAL SISTER-HOSPITAL AFFILIATION PROGRAM

1. Purpose of the Memorandum of Understanding (MoU)

The purpose of this memorandum is to explore ways to develop a collaborative relationship between Yuaikai Medical Foundation on one hand, and the Kapi'olani Medical Center at Pali Momi the other. It attempts to outline the objectives, mutual rights, principles and individual roles and responsibilities pertaining to the proposed collaboration. By outlining these aspects, the MoU hopes to foster a mutual understanding of the parameters of the proposed collaboration, thereby providing parties with general guidelines for pursing shared interest. This MoU is intended to outline a proposed collaboration and is not intended to create a legal partnership, agency, joint venture or other similar relationship.

2. Representatives

The following parties are authorized to represent the respective institution in the MoU.

a. Masamichi Oda, M.D.
Chairman
Yuaikai Medical Foundation
4-8th Takatsubo
Kashima-shi, Saga 849-1392
Japan

b. Jen H. Chahanovich
Chief Operating Officer
Kapi'olani Medical Center at Pali Momi
98-1079 Moanalua Road
Aiea, Hawaii 96701
USA

3. Objectives

The parties agree that the ultimate goal of the proposed collaboration and its associated activities is to explore a mutually beneficial relationship between Yuaikai Medical Foundation on the one hand, and Kapi'olani Medical Center at Pali Momi on the other, which in the short term is anticipated to focus on international professional development.

4. The Understanding

a. Article 1: Principles

We understand that:
- The proposed collaboration will look for areas of mutual interest, suitable for professional exchange and training program.

Memorandum of Understanding
June 7, 2010

- The proposed collaboration is institution-based and not based on the relationship of any one individual.
- Each institution will designate staff as appropriate to address areas of potential collaboration.

b. Article 2: Scope

The parties will work together to establish areas of mutual interest and potential areas for collaboration, including professional exchange and training program. The health care professional visiting the respective facilities of Yuaikai Medical Foundation and Kapi'olani Medical Center at Pali Momi will be given the opportunity to observe patient care activities and clinical operations for educational purposes. The health care professionals will not perform nor participate in any direct patient care activities unless they have required licenses/certifications and professional liability insurances.

c. Article 3: Roles and Responsibilities

It is proposed that representatives from Yuaikai Medical Foundation will visit Kapi'olani Medical Center at Pali Momi to formalize the agreement. The meeting is currently planned for June 7, 2010.

The parties will explore ways to communicating and sharing relevant information with each other as part of the developing a long-term collaboration.

d. Article 4: Funding Arrangements

This collaboration is not based on referrals or payment for services. For each project, the parties will determine in advance the contributions, whether or not in-kind, required to support the collaboration. The initiating party for the visits of the health care professionals will be responsible for all expenses and fees related to the visits including the cost of transportation, lodging, living expenses, translation services, uniforms, if required, salaries/stipends, and other expenses arising from the program.

Whereas the parties hereto agree to enter into this Memorandum of Understanding in order to further collaboration between their institutions. This sister-hospital affiliation will provide the foundation for joint programs and projects between two entities and will lead toward the improvement of quality health care on an international basis.

Memorandum of Understanding
June 7, 2010

Masamichi Oda
Masamichi Oda, M.D.
Chairman

Jen H. Chahanovich
Jen H. Chahanovich
Chief Operating Officer

↑写真2）国際姉妹病院連携プログラムに関する覚書

↑写真3）カピオラニ・メディカルセンター・パリモミ外観

「小規模多機能ホーム ゆうあい開設」

小規模多機能ホームゆうあい
管理者　内田智弘

平成二十二年六月一日、ゆうあいビレッジに小規模多機能ホームがオープンしました。正式名称は小規模多機能型居宅介護支援事業所です。事業内容は「通い」、「泊まり」、「訪問（介護）」がサービスの柱です。

私たちの法人では、これまでもこれらの形態のサービスを提供してきましたが、別々の事業所での提供でした。小規模多機能ホームではこれらを包括的・一体的に一つの事業所で提供することになります。環境の変化に敏感な高齢者（特に認知症の方）にとっては、いつも同じ職員が対応することで混乱されることも少なくなり、より安心してご利用いただけることになると思います。また専属の介護支援専門員が給付管理・サービス調整も一体的に行うため、多様なニーズや突発的なニーズにも迅速かつ柔軟に対応することが可能となります。特に独居の方や仕事などで介護に十分な時間がとれないご家族にとっては、まさに「使い勝手のいい」サービスになると思われます。

↑小規模多機能ホームゆうあい

開設に先立ち五月二十九日、竣工祝賀会を開催いたしました。樋口鹿島市長をはじめ、県議会議員、市議会議員、民生委員など多くの方々にご参加いただきましたが、この事業が一法人の事業にとどまらず、地域の事業として支持され期待されていることを改めて実感しました。

開設より一ヶ月半が経過し、利用登録者は現在二〇名、要介護度一から要介護度五の方まで幅広くご利用いただいています。

小規模多機能ホームを知っていただくため、小規模多機能ホームならではの取り組みで利用開始となられた七〇代後半の男性のケースを紹介します。この方は、三年もの間自宅に閉じこもり、心身の廃用が進んでいるにもかかわらず本人が介護サービスの利用を強く拒まれていたため、ご家族はサービスの利用を諦めていました。私たちはこの方に介護サービス利用の必要性を強く感じたため、お宅を何度も訪問し、まずは話相手として関係づくりを行いました。そうするうちに自宅周辺の散歩に出れるようになり、さらには施設までのドライブも可能となりました。このような段階的なアプローチが行えたおかげで、今では週二回の通いのサービスに来ていただけるようになりました。これまではサービス提供の時間や制度などの枠にとらわれて出来なかったことが、小規模多機能ホームでは柔軟に行えたため成功できた一例と考えられます。

介護が必要な方が地域で暮らしていくためには何が必要かという視点で、個々のサービスニーズを的確にとらえ、一人ひとりにきめ細やかな介護サービスが提供できるよう、これからも運営していきたいと思っております。

法人スタッフへの「子宮頸がんワクチン」接種始まる！

労働安全衛生委員会（健康管理センター）
土井　弥生

二〇〇九年九月に、子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）がわが国で正式に承認されました。このワクチンは、二〇〇七年にオーストラリアで承認されてから今では世界一〇〇ヵ国で使用されています。

子宮がんは、子宮体がんと子宮頸がんに分類されます。前者は女性ホルモンとの関係が深く、閉経後の五〇～六〇歳の人に発症が多くみられます。後者はウィルス感染が原因であり（したがってワクチン投与が可能）、若い世代にも発生することが特徴です。発症数は、子宮体がんが年間七〇〇〇人弱、子宮頸がんが九〇〇〇人弱です（二〇〇二年国立がんセンターの統計）。

子宮頸がんの発症は、主として性行為によりヒトパピローマウィルス（HPV）が子宮頸部に感染することが原因といわれています。子宮頸部がHPVに長期間感染したままになると、感染部位でがんになる前の細胞異常（異形成）が起こり、最終的にがん化するというプロセスをたどります。問題なのは、HPVが広く世の中に存在するありふれたウィルスであることです。HPVだけで一〇〇種類以上の型が知られており、女性のほとんどが一生に一度は感染するといわれています。もちろん、HPVに感染したすべての人にがん化のプロセスが進むわけではありませんが、ある種のHPV（16型や18型など：ハイリスク型という）はタチが悪く、この型に感染するとがん化しやすいことがわかっています。子宮頸がんは女性の病気ですが、海外ではHPVによる男性の陰茎ガンの増加も報告されており、男子にも接種している国もあるようです。

ワクチンは、接種後の一ヵ月と六ヵ月後に三回接種します。海外では一〇歳から十二歳の女子への接種が進められていますが、わが国では一〇才以上の女性となっています。

当院では、職員の健康を守る観点から、法人の補助を得て、希望者に接種を勧めています。現在まで三〇名の職員に実施しました。副作用は報告されていませんので、もっと多くの職員に接種していただきたいと思っております。希望者は健康管理センターへご相談ください。

新任Dr紹介

内科医師　内藤優香

〔出身大学〕佐賀大学医学部
〔専門領域〕総合診療部

四月より内科（総合診療）で勤務させていただいております内藤です。佐賀大学医学部附属病院で臨床研修を終え、同病院の総合診療部に入局し、医者としては四年目になります。医局の大先輩である西山院長を始め、諸先輩方、また他科の先生にも指導をしていただきながら、楽しく仕事をさせていただいております。

三年目は大学病院に勤務し、多くの問題点を抱える患者さん、診断がなかなかつかない患者さんなどを、じっくり診療していくという日々でした。症例数は少ないながらも、様々な分野の疾患を診ることが出来、大変勉強になりました。四年目は、ぜひ地域でcommon diseaseを多く学びたい！と希望をだし、今回織田病院に来ることができました。地域連携が盛んで、患者さんから信頼されるこの織田病院でその勉強ができることを、大変嬉しく思っております。日々精進し、織田病院に少しでも貢献できるよう頑張りたいです。

患者さんの声に耳を傾け、患者さんの体・心におこる様々な問題を総合的に診て、患者さんと一緒に解決していくというのが、総合診療部に属している私の、理念というか目標です。臨床力はまだまだ未熟で、至らぬ点も多々あると思いますが、まずは話しやすい雰囲気を持ちつづけつつ、毎日の診療で経験を積んで行きたいと思います。

日々笑顔で頑張ります！どうぞよろしくお願い致します。

皮膚科医師　桑代麻希

〔出身大学〕佐賀大学医学部
〔専門領域〕皮膚科

本年四月より勤務しております、皮膚科の桑代麻希です。佐賀大学を卒業し、二年間の初期研修を終え現在医師としては三年目です。外科新任の奥山先生と同期（同級生）になります。今まで皮膚科は洋子先生お一人でしたが、本年度より織田病院が日本皮膚科学会認定専門医研修施設として指定されたため、洋子先生のもとに私がめでたく赴任することができました。皮膚科医として、医師として、まだまだ修行の身ですが、洋子先生をはじめたくさんの方々の力を借りながら、毎日楽しく働かせていただいております。生死に関わるような皮膚疾患も決して少なくはありませんが、生死には関わらない疾患でも患者さんのQOLに深く関わってくることが多いため、外来には沢山の患者さんが皮膚の悩みで受診されます。治療の効果が目に見える形でるので、患者さんと一緒に喜んだり、悩んだりしていますが、一人でも多くの患者さんの笑顔が見られるようにまだまだ日々精進です。

また皮膚科だけではなく、形成外科の外来・手術、デクビタスにも参加させていただいているので、この貴重な機会に少しでも多くのことを吸収できればと思っています。

まだまだいたらない点も多く、ご迷惑をおかけするかと思いますが、織田病院でのいろいろな方との出会いに感謝しながら、少しでも皆さんのお役にたてるよう、充実した時間を過ごしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

外科医師　奥山桂一郎

〔出身大学〕佐賀大学医学部
〔専門領域〕一般・消化器外科

本年四月より勤務しています外科の奥山桂一郎です。医師になって三年目で二年間は初期臨床研修制度のために佐賀大学医学部付属病院に勤務し、各科をローテーションしながら勉強してまいりました。そのため、外科医師としてはまだまだ未熟であり、手術はもちろん病棟業務に関しても不慣れな部分が多く、多くの諸先輩方はじめスタッフの方にはご迷惑をおかけしていると感じております。私は地元が塩田町であり、鹿島高校出身でもあり地元の病院で勤務できることを嬉しく思っております。スタッフの方にも地元の先輩や後輩も多く、良い雰囲気の中で働くことができています。

私が外科医を志したのは、純粋に手術をしたいという思いがあるからです。こちらで勤務するようになってから術者として手術をさせていただく機会もあり、合併症の怖さやあまりにも未熟すぎる自分の知識から手が動かず怖いと思うことも多々あります。しかし、患者さんが手術が終わって、ありがとうと言ってもらえると何事にも変えられない嬉しさがあります。これからも先輩方のやさしい指導のもとに初心を忘れることなく、手術手技の研鑽に邁進してまいります。

まだまだ若輩者であり、本当に多くの方々に支えてもらっていると実感している毎日です。すこしでも織田病院のために何か貢献できればと思っています。今後ともよろしくお願いします。

訪問看護ステーション ゆうあい、病院へ

訪問看護ステーションゆうあい　小森ヒロ子

訪問看護ステーションゆうあいは、平成九年に介護老人保険施設ケアコートゆうあいとともにオープンしました。以後、通所サービス、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、グループホームなどとゆうあいビレッジを構成してきましたが、ただ一つ他部門との相違がありました。それは、訪問看護の利用は介護保険だけでなく医療保険でも可能だということです。

現在、介護保険と医療保険の比率は6：4で、小児や難病患者様、またターミナルの患者様等は医療保険を利用されています。財政的な理由から在宅医療を推進しようとする国の施策からだけでなく、自己決定権とQOLを重視する患者様やご家族の思いもあって、いかに重症であろうと、いかに医療器具をたくさん装着していようと、自宅で療養生活を送りたいと願う患者様が増えています。そういった時、訪問看護の出番なのです。在宅復帰するにあたっては、「我が家に帰りたいが家族に迷惑をかける」、「何がおこるかわからないので怖い」、「HOT、吸引、胃瘻、点滴等の管理がわからない」等々、精神的また医療技術的な様々な問題が起こってきます。

これらの問題により一層迅速に対応するために、訪問看護ステーションゆうあいは六月に当院の地域連携室に移転しました。ここでは、リエゾンナースやMSWとじかに顔をあわせることで密接な情報交換が行えますし、先生方、病棟、外来とともに、訪問看護の利用者の掘り起しがよりスムーズにできてくると思います。また、訪問看護を利用している患者様に変化があれば、スピーディーに主治医に報告でき対応が図れるというメリットは大きいものです。さらに、病院に移動したことで、最新の医療情報、看護技術を身につけ、さらなる看護の質の向上に努めていけると思います。ピンクのユニホームが派手かとは思いますが、今後ともよろしくお願いします。

医療安全委員会便り

～事例の分析が教訓を生かす～

リスクマネージャー　井手眞由美

院内それぞれの部署に、医療安全のリーダー的役割となる委員がいてスタッフ教育やインシデント報告事例のSHELL分析などを行っています。

SHELL分析は、現場での教訓を生かすための失敗を振り返るシステムとして定着しつつあります。問題点をS・H・E・L・Lの視点から分析し解決策を出していきます。個人レベルでの「確認を十分に行う」、「注意を怠らない」などの解決策は、注意を怠ればまた失敗は起きてしまい悪循環となります。システムの中に解決策を見つけることが重要で、SHELL分析の意義はそこにあります。

今回は医事課でSHELL分析を行った事例を紹介します。

事例の紹介・・患者様は外科外来の診察を希望し来院しました。ところが内科診察申し込み表60番に姓名を記入し、職員は患者様へ外科診察60番の診察券を渡してしまいました。患者様は外科外来で診察を待ちますが呼び出しがありません。看護師に尋ねやっとカルテの所在が分かり診察となりました。診察までに2時間かかりました。

実践・・SHELL分析の結果を踏まえ、役割分担を決め解決策の実践を現在まで継続しています。診察券の事前準備にかかる時間は予想よりも短時間で出来ており、各科の準備枚数も予想できています。「名前確認時の診察券手書き時間が短縮され、確認が丁寧になった」などの意見が出ています。

このような草の根レベルから分析・実践していくことが、医療安全文化だと考えています。今後ともこのような地道な活動の積み重ねを、医療安全委員会はバックアップしていきたいと思っています。

分析	問題点	解決策
S(ｿﾌﾄｳｪｱ)	・診察申し込み表は、名前の確認のみ行っていた。 ・診察申し込み表は、一枚の最終にすべてチェックラインが引かれているかみていた。 ・誰がカルテの準備をしたのか分からない。	・確認時には診療科・姓名・診察券番号を指差し呼称確認をする ・診療科ごとに診察申し込み表を色分けする
H(ﾊｰﾄﾞｳｪｱｰ)	・診察券は事前準備と手書きの診療科がある。	・すべての診療科の診察券を事前準備する。
E（環境）	・9時受付が混雑し、慌ててしまいやすい	
L（人間）	・外科受診希望の患者へ内科の受付用紙を渡した ・外科60番の診察券を渡す際に疑問に思っていない ・診察券が残っていることに疑問を感じていない	・診察券が残っている場合、受付担当に確認する
L（人間）	・内科にカルテがずっと置いてあるのにそのままにしてあった ・受付した人とカルテを出した人が違う	・受付・カルテ出しの人はサインをする ・長時間待たれている場合受付に連絡する

↑ SHELL分析　事例

クローズアップ close up

6/24日　インタビュー
エスタ・メディアナさん
アブデリナ・ルビスさん

エスタさん

アブデリナさん

――――　日本にはもう慣れましたか？鹿島でどこか出かけたりしました？
アブデリナ）だいぶ慣れました。この辺りでは祐徳稲荷神社にいきましたよ。
看護部長に用意してもらった自転車で出かけてます。
エスタ）　私はまだ自転車にうまく乗れません・・・
アブデリナ）〝笑〟

――――　食事はどうされてますか？日本食はどうですか？
エスタ・アブデリナ）一週間交代で自炊してます。インドネシア料理をつくります。

――――　好きな日本食はなんですか？
アブデリナ）カレーが好きです。苦手なのはお刺し身です。生臭くて・・・
インドネシアでは生で食べる習慣がないから。

――――　お二人趣味とかあります？
アブデリナ）スイミングです。有明のジムに泳ぎに行ってます。
――――　だからスタイルがいいんですね～（羨ましい）
エスタ）　私は唄うことが好きです。
――――　そういえば鼻歌を歌いながら歩いてるのみたことある～（笑）

――――　病院で働いて半年経ちますけど、仕事は慣れました？
アブデリナ）毎日勉強ばかりで大変だけどやりがいがあります。
（お二人は、月曜～金曜まで毎日仕事が終わった後も、国家試験と日本語の勉強をされています。）

――――　インドネシアの病院との違いは？
エスタ）　日本はお年寄りの患者様が多いですね。はじめは老人ホームかと思っちゃいました。
――――　〝笑〟
エスタ）　向こうでは病棟、救急、ＩＣＵにいました。
アブデリナ）私は救急、内科、小児科にいました。

――――　今後の抱負（夢）を聞かせてください。
アブデリナ）国家試験に合格することです。
エスタ）　国家試験に合格することと、日本語がもっと上手になりたいです。

――――――　最後に病棟のスタッフはどうですか？
エスタ・アブデリナ）江口師長さんはじめ、皆さんとてもやさしいです。

インタビューしてみての印象：すごく日本語が上手で明るく、すてきなお二人でした。
（インタビュアー　坂田、鶴田）

「新人歓迎会～in ハウステンボス」

医事課　久我佳子

病院二十六名、ケアコート八名の新たな仲間が加わり、四月に十四日、恒例となりました織田病院新人歓迎会がハウステンボスで行われました。

和やかな雰囲気の中、歓迎会がスタート致しました。すでに、おいしそうな料理が所狭しと並んでいます。カレーに五島うどん、寿司からケーキまで、和洋中のさまざまな美味しい料理に舌鼓を打ち、気心知れた仲間たちとの会話も弾んでいきます。デザートのアイスクリームをたいらげ、ほろ酔い気分で二次会のクルーザーへと向かいました。

クルーザーでは、新人さんによるカラオケの出し物や、樋高先生の滑らかなピアノ演奏も聴くことができ、とても心地よい時間を過ごすことができました。宿泊先の「フォレストヴィラコテージ」は、森と湖に囲まれた自然あふれる立地となっており、まるでヨーロッパに住んでいるかのような錯覚になります。翌朝、小鳥のさえずりで目を覚ますと、窓の外には一面の湖、優雅に泳ぐ白鳥の姿。思わず背伸びをしたくなる光景です。宿泊されていない方は来年ぜひ泊ってみてはいかがでしょうか。

↑レンブラントホールにて

↑二次会場にて

～ハウステンボスおすすめ情報～

- ミッフィーの世界を楽しもう　6/19～8/31
- ONE PIECE メモリアルログ in ハウステンボス　7/15～10/17
- フジテレビプロデュースのホラータウンが誕生　7/17 OPEN
- EXILE TAKAHIRO の「書」も展示したイラスト展　～8/31
- ガーデニング・ワールドカップ 2010 in ナガサキ　10/9～10/17

ハワイ大学医学部二年生 当院で臨床実習

院長　西山 雅則

佐賀大学医学部とハワイ大学医学部の国際交流事業が（交流部会長　佐賀大学医学部・地域医療科学教育研究センター　小田康友准教授）、今年も六月二十八日から七月九日まで佐賀大学を中心に行われましたが、当院にも四名の医学生が七月八日に来院され、当院とゆうあいビレッジで臨床実習を行いました。

左の写真は、実習終了後浴衣に着替えて祐徳稲荷に参拝に出かける風景です。日本三大稲荷である祐徳稲荷では、その歴史やお茶のセレモニーを通して、日本文化の一端を経験していただきました。国や地方での地域医療の違いは文化の違いにも根ざすものであり、地域医療を理解する上で、地域の文化的背景を経験することはとても重要なことと思われます。

↑祐愛会織田病院玄関前にて

資格・認定 合格おめでとう！

【織田病院】

○医師事務作業補助技能認定
- 医局秘書　前田好美（平成二十一年十二月）

○診療情報管理士
- 医事課　中島昭二（平成二十二年五月）
- 医事課　久我佳子（平成二十二年五月）

【ゆうあいビレッジ】

○介護福祉士
- 小規模多機能ホームゆうあい　平野幸子（平成二十二年三月）
- 一階療養棟　山口　健（平成二十二年三月）
- デイサービスゆうあいさくら通り　犬尾充孝（平成二十二年三月）
- デイサービスゆうあい谷所　島津陽子（平成二十二年三月）
- デイサービスゆうあいほのぼの　岩下志穂（平成二十二年三月）

○ヘルパー一級
- 二階療養棟　中村仁美（平成二十一年九月）

○認知症ケア専門士
- 小規模多機能ホームゆうあい　神近節子（平成二十二年四月）
- グループホームゆうあい　峰松れい子（平成二十二年四月）

○社会福祉士
- ゆうあい介護保険サービス　岡本ゆかり（平成二十二年三月）

ゆうあいだより

介護予防通所リハビリテーション「フィットネス」のご紹介

介護福祉士　山口 仁

介護予防通所リハビリテーション「フィットネス」では、鹿島市の委託を受け、特定高齢者の介護予防教室を開催しています。期間は平成22年6月から8月までの3ヶ月で、毎週火曜日と木曜日の午後に行っています。

準備体操の後にマシントレーニングを約一時間行ってもらい、また隔週の火曜日には口腔教室も開催し口の中の運動や正しい歯の磨き方などの指導もしています。参加者の皆様は健康への意識が高く、梅雨のじめじめした季節や猛暑の日々にもかかわらず休む利用者様も少なく毎回元気にご利用頂いています。私たち職員も皆様に負けないよう、最後まで元気いっぱいサポートしていきたいと思っています。

↑準備体操風景

↑トレーニングマシーンでのリハビリ

「BLS講習会の開催」

三階病棟　満岡政美

心肺停止の人に対し救命処置を行なわなければ、一分間ごとに一〇%ずつ救命率が下がると言われています。

最近では、デパートや学校・空港などにAED（自動体外式除細動器）が設置されているのを見かけることも多いと思います。意識してみたことはありますか？　使用方法は分かりますか？

一ヶ月前に、中学生が川で溺れている人を救命処置を行って助けた、というニュースがありました。病院内では緊急対応を迫られる場面が多いですが、それは私たちにとっては仕事なのです。

↑BLS講習会風景

BLSとは、CPR（心肺蘇生法）の知識や実技を学ぶ必要がある医療従事者なら誰でも受講できる国際免許です。医師、看護師、救急救命士、薬剤師、理学療法士、臨床工学技師、放射線技師、保健体育の先生、介護従事者、医療事務など（学生も可）。現在のBLS講習は、視覚効果を重視した実践的なコースへと発展しています。ACLSを取りたい方もBLSの受講は必須です。

佐賀県には好生館にしかトレーニングサイトがありませんが、一〇名以上の受講者の希望があれば出張コースが可能です。当院では、さる六月十三日に、ケアコートのスタッフも含め十四名の参加を得て、第三回目となるBLS講習会を開催しました。全員試験に合格し、証明書とバッチが貰えました。

先日、私はインストラクターとして、伊万里や有田の病院に出張コースの手伝いに行ったのですが、看護師以外にも看護学生さんやクラークさん、介護タクシーの運転手さんの受講が増えているようです。

当法人では、「スタッフ全員がBLSを取得する」ことを目標に、今後も企画していきたいと思っています。

↑BLS講習会風景

夏におすすめの1店　【神埼宿場茶屋】

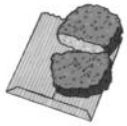
夏と言ったらそうめん、そうめんと言ったら神埼！
ということで、美味しい神埼そうめんが食べられる夏にピッタリのお店を紹介します。

神埼警察署のすぐ近くにある神埼宿場茶屋というお店です。ここでは、作りたての神埼そうめんや定食、おこわ、赤米を使用した赤胡餅（あかごもち）などが味わえます。外で食べられるスペースもあり4月～9月はそうめん流しが楽しめるとのこと。

その中でもこの店で今密かに人気を集めている商品が『そうめんコロッケ』。地元産のじゃがいも、人参、玉ねぎ等の具の中に、そうめんを加えただけでなく、衣にも砕いたそうめんをまぶして揚げてあるので、揚げめんのパリパリ感と、衣のサクッとした食感が同時に楽しめます。旅行情報雑誌じゃらんの“ご当地グルメグランプリ”でも取り上げられました。神埼宿場茶屋では、この「そうめんコロッケ」を1個100円で販売。注文を受けて揚げているので、アツアツを食べることが出来ます。

その他にも、弁当や地元野菜、手作り和菓子などの販売もあります。

そこで、オリジナルではありますが『そうめんコロッケ』の作り方を考案したので紹介します。



DATA
「神埼宿場茶屋」
営 佐賀県神埼市神埼町枝ケ里497-12
☎ 0952 - 53 - 3040
住 9：00～17：30

そうめんコロッケ

✤材料（4人分）✤

〔具〕
じゃがいも・・・・・・・・中2個
そうめん（乾）・・・・・ 1/2束
玉ねぎ・・・・・・・・・・1/2個
キャベツ・・・・・・・・・・80g
ひき肉・・・・・・・・・・・40g
油・・・・・・・・・・・・適量
塩こしょう・・・・・・・・・少々

〔衣〕
小麦粉・・・・・・・・・・・適量
卵・・・・・・・・・・・・・適量
パン粉・・・・・・・・・・・適量
砕いたそうめん（乾）・・・1/2束
油・・・・・・・・・・・・・適量

・・・簡単なので、ぜひ作ってみてはいかがでしょうか。

✤作り方✤

1 具をつくります
じゃがいもは茹でて軽くつぶす。そうめんは茹でて好みの長さに切る。
玉ねぎ（みじん切り）、キャベツ（千切り）、ひき肉は油で炒める。これを全て混ぜ塩コショウで味付けをし、形を整える。

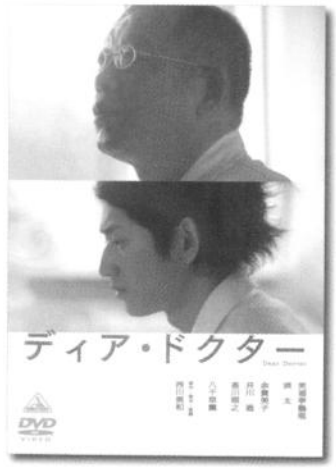
2 衣をつけます
【小麦粉】→【溶き卵】→【パン粉と砕いた乾燥そうめんを混ぜたもの】の順にまぶす。

3 油で揚げます
キツネ色になったら完成！お好みのソースをかけて食べてください。

（栄養食事サービス部　管理栄養士　牛島久美子）

DVDライブラリー

ディア・ドクター



今回紹介するのは、嘘と真実が入れ替わる不思議な作品です。人口一五〇〇人の神和田村は半数が高齢者。そんな村で唯一の伊野医師が行方不明となって大騒ぎとなる。伊野が失踪するまでの経過や失踪後の警察の捜査が交互に描かれていく。

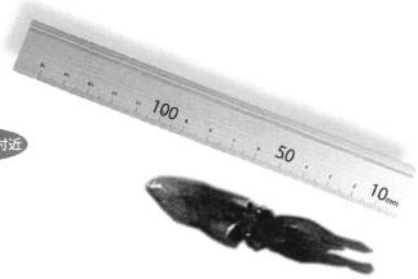
私は、末期がんに侵された鳥飼かづ子との交流が最も印象に残った。彼女は、夫が人工呼吸器につながれたまま最期を迎えたこともあってか、『積極的治療』を拒否する。彼女の娘は東京の医師である。娘に本当の病状は隠すよう伊野へ頼んでいたが、娘は偶然かづ子の薬を発見し伊野を訪ねてくる。伊野は、かづ子の思いを尊重して娘に病状説明を行う。患者の望みとはいえ、娘に病名を隠したまま最期を迎えさせることが本当にいいことなのか？　最期を迎えようとした患者を前にした時、その人とどのように向き合うのか？　どんな関わりが患者や家族にとって良いことなのか？　考えさせられる作品です。ぜひご覧下さい。

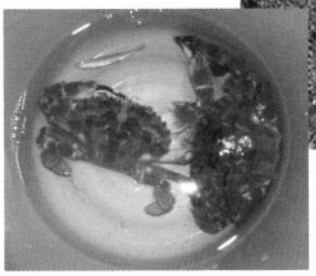
また、嵐の櫻井翔君主演映画「神様のカルテ」が来年公開予定！！地方医療に取り組む内科医が末期がん女性との出会いで医師として成長していく姿を描き、生命の尊さや生きるとは何かを問いかける映画のようです。乞うご期待！です。

（三階病棟　下田奈美）

ふるさと探訪

『イカゴすくい』





←かに

↑いかご

夏にむけてのこのシーズン、おすすめのレジャーを紹介します。それはイカゴすくいです。場所は、佐賀県太良町大浦港付近と長崎県小長井町付近の二カ所。いざ！イカゴすくいへ　Let's go！

最初の目的地である小長井町の堤防に到着し、ライト・網を準備してポイントに向かいます。ライトを点灯させ、イカゴ掬い開始！

待てども暮らせども来ません。二十分程経過し、白い魚影が目の前を通り過ぎます。草フグ（約一〇ｃｍ）でした。その数分後に、おおきな魚影が・・・なんとエイ（約三〇ｃｍ）が出現。すぐに網を投入しましたが、動きが速く、網にかすりもせず逃げてしまいました。しばらくして、次のポイントである大浦港付近に移動しました。ライトを照らしてみると小さな魚影が見えましたが、一向にイカゴは現れません。やはりシーズンの先取りしすぎだったと後悔し帰宅の途につこうとした時、ライトの向こうに二つの光る物体！

二〇ｃｍほどの大きさのカニでした。三匹の捕獲に成功し帰宅しました。今回は、イカゴ掬いの醍醐味をお伝えすることができませんでしたが、本来のシーズンは七月～八月中旬（お盆ぐらい）です。夏の思い出にお子さんや家族と一緒にイカゴ掬いを楽しんでみてはいかがでしょうか？

（リハビリテーション科　三原悠輔）

ブックエンド

【病院図書室】

・「逝かない身体～ＡＬＳ的日常を生きる」
川口有美子著
医学書院　二〇〇九

この本はＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）を患った母親に、十二年もの間寄り添い、在宅で看取る娘の記録です。日に日に体の様々な部位が麻痺していき、眼球さえも動かなくなってしまう・・・。母の病気の急速な進行に対して、家族は受け入れる心の準備が出来ず、不安、焦り、葛藤などが起こってきます。読みながら本の中に吸い込まれて、息を呑みました。母の身体とコミュニケーションを取りながら、安楽な姿勢のための微調整の日々。使える道具は使い、創意工夫をしながらの在宅介護。「ただ一緒にいられることを尊び、その魂の器である身体を温室に見立てて、蘭の花を育てるように大事に守り」在宅で看取られました。

著者は自らＮＰＯ法人を立ち上げ、難病、重度障害者の在宅療養を支援されています。この本でＡＬＳ患者・家族のリアルな声を聞き、やろうと思えば出来る！　努力することの素晴らしさを学びました。ＡＬＳについて知るきっかけになる本だと思います。

（ＭＳＷ　原和行）

新着図書

・M.Dobson著、小林力訳
「Disease ～人類を襲った30の病魔」
医学書院　二〇一〇

・D.W.Zaidel著、河内十郎監訳「芸術的才能と脳の不思議～神経心理学からの考察」
医学書院　二〇一〇

編集後記

ようやく長い梅雨も終わり、ギラギラと太陽の日差しが降り注ぐ真夏に突入しました。皆様いかがお過ごしでしょうか？世界中が熱狂したワールドカップ南アフリカ大会もスペインの優勝で幕を閉じ、日本代表も目標であるベスト四には届きませんでしたが、すばらしい活躍で日本中に感動と勇気を与えてくれました。

病院では訪問看護ステーションが院内へ移転し、退院後も病院との連携がとりやすくなり、さらに充実した退院支援も期待できます。ゆうあいでは六月に小規模多機能ホームが開設され、こちらも地域に密着した介護が期待されます。毎日暑い日が続きますが、くれぐれも夏バテ、熱中症等、健康に気をつけてこの夏を乗り切りましょう。

（放射線科　坂田善和）